

Title	井村喜代子教授略歴・著作目録
Sub Title	Chronology and bibliography of the writings of Professor Kiyoko Imura
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1995
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.87, No.4 (1995. 1) ,p.632(124)- 635(127)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19950101-0124

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

井村喜代子教授 略歴・著作目録

1994年12月現在

略 歴

- 1930年3月1日 石川県金沢市に生まれる。
1947年3月 石川県立金沢第二高等女学校卒業
1947年4月 津田塾専門学校英文科入学，1948年学制改革により（新制）津田塾大学へ移る。
1950年3月 津田塾大学教養課程修了
1950年4月 慶應義塾大学経済学部3年へ編入学
1952年3月 慶應義塾大学経済学部卒業
1955年3月 慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了
1958年3月 同上 博士課程単位取得退学
1979年3月 経済学博士の学位を取得（慶應義塾大学第548号）

職 歴

- 1955年4月 慶應義塾大学経済学部副手
1958年4月 慶應義塾大学経済学部助手
1961年4月 慶應義塾大学経済学部専任講師
1963年4月 慶應義塾大学経済学部助教授
1972年4月～現在 慶應義塾大学経済学部教授；慶應義塾大学大学院経済学研究科委員兼任

- 1973年度前期 一橋大学大学院経済学研究科兼任講師
1973年度 大阪市立大学大学院経済学研究科兼任講師
1975年度 中央大学大学院商学研究科兼任講師
1976年度 福島大学経済学部兼任講師
1976年度 金沢大学経済学部兼任講師
1977年度 中央大学商学部兼任講師
1977年度 名古屋大学大学院経済学研究科兼任講師
1980年度前期 一橋大学大学院経済学研究科兼任講師
1980年度 富山大学経済学部兼任講師
1984年度 東北大学経済学部兼任講師
1985年度 東京大学経済学部兼任講師
1994年度前期 日本女子大学家政経済学科兼任講師
1994年度 福島大学経済学部兼任講師

学 会 関 係

- 所属学会 経済理論学会，土地制度史学会，社会政策学会
1981年4月～現在 土地制度史学会評議員

1981年4月～現在 経済理論学会幹事
1986年4月～92年3月 経済理論学会代表幹事

著書・専門論文

著書

『恐慌・産業循環の理論』（有斐閣、1973年）
『「資本論」の理論的展開』（有斐閣、1984年）
『現代日本経済論——敗戦から「経済大国」を経て——』（有斐閣、1993年）

共著書

遊部久蔵編著『資本論研究史』（ミネルヴァ書房、1958年）
常盤政治・井村喜代子・北原勇・飯田裕康『経済原論』（有斐閣、1980年）

編著書

富塚良三・井村喜代子編『資本論体系（4）資本の流通・再生産』（有斐閣、1990年）

専門論文

1955年 「古典学派に於ける『賃労働』問題の分析視角——アダム・スミス——」（『三田学会雑誌』48巻11号）
1956年 「D.リカードの『賃労働』問題の分析視角」（『三田学会雑誌』49巻4号）
1957年 「『経済学批判』プランの『賃労働』について」（『経済評論』1957年2月号）
「古典学派の崩壊と『賃労働』分析の転換——J. S. ミル——」（『三田学会雑誌』50巻2号）
1958年 「古典学派の崩壊と『賃労働』分析の転換——リカード学派——」（『三田学会雑誌』51巻2号）
「恐慌論」（前掲遊部久蔵編著『資本論研究史』）
「窮乏化論」（同上書）
1959年 「ギルマン『利潤率の低落』をめぐって」（『三田学会雑誌』52巻1号）
「賃金格差の分析視角」（『経済評論』1959年11月号）
「戦後の賃金理論研究における一論点——同一労働同一賃金の論議をめぐって——」（慶應義塾経済学会編『日本における経済学の百年（下）』日本評論社）（後に、赤松良子編『日本婦人問題資料集成：第3巻労働』ドメス出版、1977年に収録）
1960年 「マルクスの相対的過剰人口論にかんする一考察」（『三田学会雑誌』53巻4号）
「マルクス賃金理論の方法論について」（藤林敬三博士還暦記念『労働問題研究の現代的課題』ダイヤモンド社）
1961年 「わが国工業の構造的特質といわゆる“企業規模別賃金格差”」（北原勇と共同執筆）（社会政策学会編『労働市場と賃金』有斐閣）
1962年 「生産力の発展と資本制生産の『内的諸矛盾の展開』——『資本論』第3部第3篇第15章をめぐって——」（『三田学会雑誌』55巻4号）
「恐慌理論にかんする一論点——固定資本の再生産をめぐる諸論議について——」（『三田学会雑誌』55巻10号）

- 1963年 「『企業規模別賃金格差』論にかんする若干の疑点——大企業における低賃金労働の再編・強化を中心として——」(『三田学会雑誌』56巻6・7号)
「雇用・賃金」(井汲卓一他編『日本経済分析』至誠堂)
「日本資本主義の再生産構造分析試論——昭和35年『産業連関表』を手がかりとして——(一)」(北原勇と共同執筆)(『三田学会雑誌』56巻11号)
- 1964年 「競争論」(『資本論講座 4』青木書店)
「利潤率の傾向的低落法則——第3部第3編第15章の理解を中心として——」(同上書)
- 1965年 「『資本論』と日本資本主義分析——再生産表式論をめぐって——」(『思想』1965年第5号)
「日本資本主義の再生産構造分析試論——昭和35年『産業連関表』を手がかりとして——(二)~(四)」(北原勇と共同執筆)(『三田学会雑誌』58巻7号, 同9号, 同10号)
- 1966年 「日本資本主義の再生産構造分析試論II——昭和30年以降の拡大再生産過程——(1)~(2)」(北原勇と共同執筆)(『三田学会雑誌』59巻6号, 同10号)
- 1967年 「日本資本主義の再生産構造分析試論II——昭和30年以降の拡大再生産過程——(3)~(5)」(北原勇と共同執筆)(『三田学会雑誌』60巻5号, 同7号, 同8号)
「高度成長過程における再生産構造(上)(下)」(北原勇と共同執筆)(『経済評論』1967年9月号, 10月号)
- 1968年 「相対的過剰人口をめぐる若干の問題——とくにその『停滞的形態』を中心として——」(講座『現代賃金論 2』青木書店)
- 1969年 「拡大再生産過程にかんする表式分析」(慶應義塾大学『経済学年報』第12号)
「投資行動にかんするマルクス理論(1)(2)」(『三田学会雑誌』62巻5号, 同6号)
「生産と消費の矛盾——恐慌論研究のために——(1)」(『三田学会雑誌』62巻12号)
- 1970年 「生産と消費の矛盾——恐慌論研究のために——(2)~(4)」(『三田学会雑誌』63巻1号, 同8・9号, 同10号)
- 1971年 「『生産と消費の矛盾』と産業循環(1)(2)」(『三田学会雑誌』64巻2・3号, 同7号)
「産業循環と相対的過剰人口・賃金」(『三田学会雑誌』64巻10号)
- 1972年 「『生産と消費の矛盾』と産業循環(3)」(『三田学会雑誌』65巻1号)
「資本主義経済の動態——資本蓄積と産業循環——」(富塚良三編『経済分析入門』有斐閣)
- 1975年 「恐慌論研究の現状と問題点(上)(下)」(『経済評論』1975年10月号, 11月号)
- 1976年 「戦後日本資本主義の生産構造」(『新マルクス経済学講座(5)』有斐閣)
- 1977年 「日本資本主義の現段階」(『経済理論学会年報第14集；現代日本資本主義と全般的危機』青木書店)
- 1978年 「『資本論』における紙幣分析——インフレーション分析のための予備的考察——(上)(下)」(『三田学会雑誌』71巻3号, 同4号)
「価格変動の諸類型」(『三田学会雑誌』71巻5号)
「スタグフレーションへの分析視角」(『経済セミナー増刊・マルクス経済学のすべて』)
- 1979年 「占領政策の展開——戦後日本資本主義論のために——」(『三田学会雑誌』72巻2号)
「『資本論』第2巻解説」(遊部久蔵他編講座『経済学説史III』同文館)
- 1980年 「“1949年秋”→朝鮮戦争における占領政策・講和政策」(『三田学会雑誌』73巻5号)
「拡大再生産表式の意義と方法——最近の諸論議の批判的検討——」(『三田学会雑誌』73巻6号)
- 1981年 「再生産構造の特質と矛盾の展開」(講座『今日の日本資本主義(3)』大月書店)
- 1982年 「『商品過剰論』と『資本過剰論』との区分の誤りについて」(『一橋論叢』87巻2号)

- 1983年 「『資本論』の対象領域と残された課題」(『三田学会雑誌』76巻3号)
- 1984年 「資本主義の基本的な矛盾」(『経済理論学会年報第21集；マルクス没後100年・「資本論」の現代的意義』青木書店)
- 1985年 「現代資本主義における相対的過剰人口問題と『完全雇用』政策」(北原勇と共同執筆)(『資本論体系(3)剰余価値・資本蓄積』有斐閣)
「『経済大国』とその矛盾」(講座『日本歴史(12)現代2』東京大学出版会)
- 1987年 「軍需生産にかんする理論的一考察」(中央大学『商学論纂』28巻5・6号)
「1949年秋～朝鮮戦争」と“合理化投資”(上)(『三田学会雑誌』80巻4号)
- 1988年 「1949年秋～朝鮮戦争」と“合理化投資”(下)(『三田学会雑誌』81巻1号)
「ベトナム戦争と高度成長の再現・破綻(上)」(『三田学会雑誌』81巻3号)
- 1989年 「ベトナム戦争と高度成長の再現・破綻(下)」(『三田学会雑誌』81巻4号)
- 1990年 「戦後IMF体制の崩壊」と“1971年～74・5年”(『三田学会雑誌』82巻4号)
「日米経済関係の現局面」(神戸大学『国民経済雑誌』162巻3号)
「1980年代の日米関係と日本経済」(『三田学会雑誌』83巻3号)
「単純再生産」(前掲富塚・井村編『資本論体系(4)資本の流通・再生産』)
「生産力の発展とレーニン表式」(同上書)
「『資本論』の再生産表式分析と〈生産と消費の矛盾〉——残された分析の確認を中心として——」(同上書)
「動態的分析にとっての理論的基礎」(同上書)
「再生産表式による軍需生産の分析」(同上書)
- 1991年 「1980年代の日米関係と日本経済(続)」(『三田学会雑誌』84巻2号)
「湾岸戦争と『新世界秩序』」(北原勇と共同執筆)(経済理論学会有志『湾岸戦争を問う』勁草出版サービスセンター)
- 1994年 「日本経済分析の基礎視角」(『三田学会雑誌』86巻4号)
「『20世紀末の資本主義』についての重要な問題」(『三田学会雑誌』87巻2号)

書評

- W. S. ヴォロディン『ケインズ——独占資本のイデオログ(Keynes —— ein Ideologe des Monopolkapitals, 1955)』(『三田学会雑誌』49巻4号, 1956年)
- F. ベーレンス『労働生産性・価値及び生産原價(Arbeitsproduktivität, Wert und Selbstkosten —— Eine Studie über den Zusammenhang zwischen Arbeitsproduktivität, Wert und Selbstkosten der Produktion, 1954)』(『三田学会雑誌』49巻11号, 1956年)
- 杉原四郎著『ミルとマルクス』(『三田学会雑誌』50巻7号, 1957年)
- 白杉庄一郎著『独占理論の研究』(『三田学会雑誌』54巻8号, 1961年)
- 富塚良三著『恐慌論研究』(『経済評論』1963年3月号)
- 山本 潔著『日本労働市場の構造』(季刊『労働法』64号, 1967年)
- 玉垣良典著『日本資本主義構造分析序説』(『経済評論』1971年9月号)
- 伊藤 誠著『信用と恐慌』(『朝日ジャーナル』1973年8月3日号)
- 宮崎犀一著『経済原論の方法(上)(下)』(専修大学社会科学研究所『社会科学年報』7号, 1973年)
- 林 直道著『現代の日本経済』(『エコノミスト』1977年4月5日号)
- 下平尾勲著『信用と景気循環』(『世界経済評論』1978年12月号)
- 中村隆英編『占領期日本の経済と政治』(『土地制度史学』86号, 1980年)